

トラベルバディ

travel badi!

やっぱりタイが好き♥
バンコク／サメット島の旅

モデル／RYO（SGB20）　写真／EISUKE
企画・構成・取材／HIRO　デザイン／EMF　取材協力／株式会社PINK　www.loveandtravel.co.jp

タイの街、食、人、僕の見たタイの色は優しかった。

バンコクの街並みは不思議だ。新しい時代と過去の時代が交ざりあって混沌としている。それは良い意味で興味深く、人間味が溢れる文化があるように感じられた。

高層ビルの下で、たくさんの衣料品や雑貨などがところ狭しと置かれた路面店が立ち並ぶ通り沿い。物価の安さからだろうか、観光客が冷やかし気味に商品にくいつく。僕もくいつく。そこをいつも通るバイクが当たり前の風景のように通り過ぎ、少しばかり排気ガスをまき散らかした。だけど、それを気にする者は誰もいない。

雨が降ったあとの砂利道を歩く。水たまりが土色に染まり、そこを避けながら歩いていたら、美味しそうな匂いが辺りを漂った。カオ・マン・ガイ、クイティアオ・ナーム、ソムタム、ローティー。ついついどれを食べようか迷ってしまい、まずは15バーツのコーラで喉を潤すことにした。それからじっくり考えて、そうだ！エビを食べようと炭火で焼いたエビのクン・パオを頼んだ。タレがヤミツキになる辛さで、ほのかにパクチーの香りがした。背わたはとられてなくて、生真さがうっすら感じられたけど、これもタイの味のような気がした。

おばちゃんにお金を払うと、ちょっとおつりをほったくられた気がしたけど、可愛い笑顔だったから、まいっかって。それも旅の楽しみのひとつかもと思った。それからたくさんのバイクが停まっている通りを抜けようとした、そしたらさっきのおばちゃんが後ろから走ってきて声をかけてきた。「あんたお金多いよ」だってさ。思わず笑ってしまって「チップだよ」って言った。うん、僕、なんかタイ、好き。







タイを満喫するために
タイを知る。
バンコクを楽しむ。
その魅力を見つける。



What's BANGKOK

華やかな大都会の賑わいと、厳かな仏教文化が息づき、古今の歴史と文化が見事に調和した都市、バンコク。1782年、ラーマ1世によってこの地へ遷都されて以来、タイの政治・経済・教育・文化の中心であり続け、近年ではさらに「東南アジアのハブ」と称される先進的な国際都市へと成長を遂げました。そして、高層ビル群や巨大なショッピングモールの足元には、屋台での買い物や食事を楽しみ、道すがら小さな祠に手を合わせる人々の姿が見られます。

日本

▼タイ

タイと日本の距離は?

航空代は通常時3万円代～／ピーク時は4万円代～。時差はマイナス2時間（サマータイムなし）。
タイ・バンコクまでの距離は約4600km、飛行時間約6時間。
1THB=3.59円（2013年6月現在）

日本人のタイへの年間旅行者は120万人を超え、人気海外旅行先としても上位にランクする。リピート率は6割にも上り、一度タイに行ったらその魅力に取り憑かれるという。それほどまでに旅行者を虜にするタイの魅力とは何なのだろう?

＜ 今回のプランで利用したマップ ＞



宿泊先

スワンナプーム空港（急行で約17分）

パヤタイ駅

マッカサン／ペッブリー駅

サイアム駅

シリキット・コンベンションセンター駅

フアラムポーン駅

サムヤーン駅

ルンピニ駅

クロントゥーイ駅

ウォンウィエン・ヤン駅

シーロム駅／サラデーン駅

サパーン・タクシン駅



ナイトエリア



サトーン船着場



全長372km、タイを代表するメーナム・チャオプラヤー。全38の船着場があり、川沿いにはたくさんの観光スポットがある。初めてのバンコクならば、乗るだけで王宮周辺や様々なビューサイトが楽しめるチャオプラヤー・エクスプレスに乗船するのがオススメ。（料金は12THB ～ 32THB）



ゲイ大国と呼ばれるタイはLGBTに寛容であり、シーロム駅（サラデーン駅）からすぐにあるパッポン通りとタニヤ通りは、夜には路面一面に衣服や装飾品を販売する屋台が並ぶ。その先を行くと、ナイトライフが満喫できる大人の歓楽街が顔を見せ、ゴーゴーバーやマッサージ、ゲイバーなどが多数軒を連ねるゲイ天国エリアとなっている。この通りは元々はベトナム戦争の際に、アメリカ軍兵士が休暇を楽しむために始まったことを起源としており、現在は世界有数のゲイ・シティとして有名である。物価が安いこともさることながら、タイの国の人々が元々持っている分け隔てないおおらかさが人気の理由となっている。

バンコクの歩き方は人それぞれだろう。王宮や観光地のローカル巡り、屋台や人気店のタイフード、デイ&ナイトマーケットでのショッピングなど、その時々の「行きたい」「やりたい」が旅行者の一日を彩って行く。いつもの東京を離れてバンコクにやってきた6月末。赤道から約30度の地点に位置するタイは、熱帯モンスーン気候でこの時期は雨期に当たる。雨や曇りの日が多くなるが、日本の梅雨のようにダラダラと雨が降り続くわけではなく、バケツをひっくり返したかのようなスコールが、1日に数回降る程度。到着した日も雨だったが、すぐに止んだ。実に面白い通り雨の歓迎だと思った。

スワンナプーム空港からホテルの送迎バスに乗って、サイアム駅にあるホテルまでは約40分程度で到着。宿泊したホテルは新しくリニューアルオープンしたばかりのデザイナーズホテル『LIT BANGKOK』。ゲイフレンドリーで有名。さらに『KIRIYA SPA』やジム、プールなどもあって嬉しい。もちろん、ゲイタウンのパッポン通りまでもすぐ近くの距離。飛行時間が6時間だったからか、バンコク初日なのに少し疲れた気もするけど、せっかく旅行に来たのだから、寝て過ごしているわけにはいかない。ひとまずスーツケースを開ける。ごちゃごちゃに詰め込んだ荷物が一気に飛び出し、その中から「これはいるものだろうか?」というような物が出てくるのはおかしな話だ。

さぁともあれ、旅は始まったのだ。GO TO the WORLD !! いつもとは違う僕たちの楽しいひとときを探しに行こうじゃないか。



レストラン&バー、サラ・ラタナコーシン・バンコクからはお酒を片手に、光に照らされた幻想的なワット・アルンが目の前で堪能できる。

バンコク ぶらりひとり旅 気ままワンデイマップ

ノープランっていうのも旅の良きシナリオ。とは言いつつもちゃっかり最新のガイドブックを片手にバンコク市内へと繰り出す。ゾウを見に遠くに行くわけでもないから、電車で行ける範囲を楽しむのがこの地を知ろうとする僕のバンコク旅プラン。今のバンコクを眺めながら、歴史と文化が見事に調和した都市を肌で感じてみる。

とりあえず、優雅な時間も必要だし、ちゃちゃっと色々見てみたい欲張りコースを選択し（オススメと書いてあった）、川を下りながら観光することにした。目指すはワット・アルン。三島由紀夫の小説「暁の寺」のモチーフにもなっている歴史ある寺院へ。夕陽と川と仏塔の絶景を臨んだものの、時間が遅くなってしまって朱色の光は見られなかったが、暗闇の中に映し出される黄金色がなんとも美しい景色だった。

次に来る時は、誰かと一緒に観たいなと思う。





タイフードも満喫。上から、辛いソースで味わうクン・パオ、鶏肉のバジル炒めのガパオ・ガイ、茹でた鶏肉とライスのカオ・マン・ガイ、お好みで薬味を。







場所は変わって、新宿二丁目でいうところのココロカフェ、大阪でいうところのドゥウィズカフェ。『コーヒーソサイエティ』で冷たいスムージーを堪能。24時間営業でゲイの憩いの場になっていることではお仲間ばっかり目に入る。そして、無料ゲイフリーペーパーがわんさか置いてあって、なんだかタイが微笑ましく思えてくる。「LGBTがあたりまえ」そんなことを考えていたら、すっかりゲイバーで酔っぱらって、片言の英語でお店のスタッフたちとどんちゃん騒ぎ。ありゃりゃ、日本と同じ（笑）。







パッポン通り沿いにあるゲイエリアは各路地をソイと呼ぶ。ソイ1やソイ2のように、路地によって通りの雰囲気が異なるのも面白い。

バンコク市内は電車、タクシー、トゥクトゥクで行きたいところにすぐに行ける。



11:00 カオニャオ・マムアン

ずっと食べてみたかったマンゴーと餅米のココナッツソースをかけたお菓子の屋台を発見して、早速食べてみた。甘みを際だたせるために塩を加えてるところは和菓子っぽい。なんか口の中でとろっとした触感とココナッツの甘みが良い感じのハーモニーか!? ってことでペロリとごちそうさま♪



11:30 パワースポット巡り♪

良い旅行になるように、まずはスクンビット駅のあるセントラルワールド（伊勢丹前）のパワースポットへ。ここには学問の神・芸術の神であるガネーシャ（画像写真）と、恋愛の神のトリムルティがいる。やっぱり女性が多いんだけど、人目を気にせずに恋愛成就を祈りました!



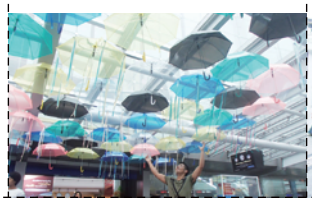
13:00 水曜日は無料ムエタイ鑑賞

タイで一番有名なデパートがサイアムパラゴン。そのデパートの前にはムエタイのリングが常設してあって、実は毎週水曜日はタダで観られちゃうという情報を聞きつけて向かった。試合が始まると人だらけで大混雑。ムエタイの迫力よりも、観客たちの熱気や歓声に興奮しちゃった!



14:00 空港!? ターミナル21へ

サイアム駅から4駅のアソーク駅に2011年末にオープンした「ターミナル21」でショッピング。空港のターミナルをテーマにしていて、エレベーターの乗り降り口に「出発」「到着」などと記してあり、ここをくぐると各国へ入ることができるというユニークなデパートでした。



ガイドブックだけを頼りにはできない。旅先ならではの様々なできごとや、気ままな衝動があるからこそ、実に面白いのだ。恋愛の神様に願をかけつつ、ひとりぶらり旅行を続けていく。

「そうだ！京都へ行こう」というわけではいが、「そうだ！トゥクトゥクに乗って、ターミナル21に行こう！」と突然名案が浮かぶ。駅前で買った唐揚げを頬張りながら、ピンク色の可愛いTシャツを着たお兄さんに声をかけ、ショッピングセンターのターミナル21に向かう。ターミナル21のコンセプトは各フロアごとに違う都市に連れていってくれるというもの。カリビアン、イタリア・ローマ、フランス・パリ、イギリス・ロンドン、トルコ・イスタンブール、ベルサイユ宮殿、サンフランシスコ、ハリウッド…タイに来ただけで“世界一周気分を味わえるなんて夢のような話じゃないか。

バンコクぶらりひとり旅。自由気ままに行きたいところへ。食べたいものを食べて。現地の人々の優しさと笑顔に触れ合う。

ひとり旅って実に楽しい。僕の「気ままワンデイマップ」はこれからも増えていきそうだ!!



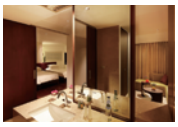
伊勢丹前のパワースポットには、3人の神が一体となった恋愛の神のトリムルティがいる。タイの若者に人気があり、木曜の夜9時半に赤い薔薇9本とお線香9本をお供えするとさらに効力があるらしいのだが…どうなのでしょうか？

バンコクに泊まるならココへ

スタイリッシュな空間と快適なスパエリア

光と影を使ってモダンに演出したサイアム駅のスタイリッシュなホテル。日当たりのよいメザニンプール、贅沢なスパサービス、無料Wi-Fiも提供し、ゲイフレンドリーなホテルで人気を誇る。日中は部屋全体に太陽の光が入り、夜はムーディーな照明が客室を照らす。スパではマッサージ、ホットタブ、スチームバスなどでリラックスを堪能することが可能。シティビューの高級レストラン『Fiesta Steppe』では、各国料理を味わえる。併設のバーではプレミアムワインやカクテルを楽しめるのもポイント。





ホテル LIT BANGKOK
デザイナーズホテルでお洒落なひとときを。

36/1 Soi Kasemsan1, Rama1, Pathumwan, Babgkok 10330
T +66 26 123456 ／ F +66 26 123222
www.litbangkok.com



街中のいたるところにある屋台。麺類、米類、スイーツなど、どれも美味しそうなものばかり。ただし、辛味ソースで使用する生のカニを潰したものは要注意! 慣れていない観光客だとお腹が下っちゃう確率が高い!?



バンコクに行ったら一度は足を運んでほしいのがターミナル21。最先端のタイが味わえるスポット。入り口にはセキュリティチェックがあって、スタッフの制服はなんちゃってキャビンアテンダントでお洒落。





ナイトマーケットでは激安衣装や雑貨が豊富にあって、目を奪われてしまう? 可愛いTシャツや偽物?ブランド品（イケマセン!）までも。中には手作りの民芸品もあって、お土産に最適です。



通りや時間によっては車が通れなくなることもしばしばあるので要注意。そんなときは、トゥクトゥクを利用しよう。車と車の間をスイスイ走ってくれるから、渋滞知らずで移動時間を短縮できる。

26:00

ふかふかベッドでおやすみ～

ひと通りゲイ遊びを満喫し、最後はクラブで酔っぱらっちゃいました。ホテルまではトゥクトゥクで夜風にふかれながら悪酔いを冷まそうとしたけど、あっけなくダウン。次の日は朝からサメット島。ってことで、睡眠不足も行きのバスの中でたっぷり寝て解消。あ～1日が濃厚すぎる幸せ♪



23:00

ゴーゴーバーへLet's GO GO♪

夜のお楽しみはなんと言ってもゲイ遊び。パッポン通りへ繰り出し、ゴーゴーバーやゲイバーの前を行ったり、来たり…。ちょっと勇気が出ないと思っていても、客引きが凄く、見るだけでも大丈夫っていうのでお店へ。超絶ビックリ!&興奮マックス。って気に入られちゃいました。



19:30

チャオプラヤー・エクスプレス

ちょっとはタイの名所観光もしたかったので、川旅をしに、船着場のあるサパーン・タークシンへ。さっそくワット・アルンを目指して出発。チャオプラヤー川の流れに身を任せながらのクルーズは風が気持ちが良く、水上から見える自然と人工が織りなす夕景が実にロマンチックでした。



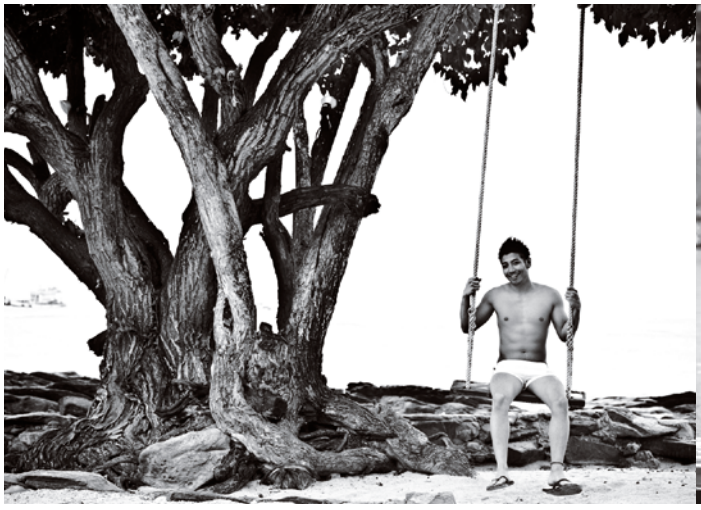
16:00

マッサージでウハウハ♥

たくさん買い物をしたのでひと息。ホテルLIT内にあるKIRIYA SPAへ。洞窟のような室内はとてもひんやりしていて静かで、落ち着いた空間。泡風呂も気持ちよいし、優しい手つきで滑らかにマッサージしてくれるちょっと大人のためのスペースに大満足。









美しい自然が織りなす知られざるタイの楽園

白い砂浜のビーチは細かな砂が心地よく体に密着し、透き通った青い海と真っ白な波しぶきが気持ち良い。サイケオビーチには、大きな木のブランコもあった。そのブランコに腰掛けて夕陽を眺めると、海がキラキラ優しく微笑みかける。

SAMED RESORTS

サメット島

綺麗な海とプール 澄み渡る青い空 バンコクから一番近い リゾート地



What's SAMED

タイの美しい島で知られるサメット島は、本土から6.4km沖合いのタイランド湾内に位置する。首都バンコクから比較的近い距離にあるため、外国人観光客だけでなく、バンコク市民などにとっても手軽な週末のリゾート地となっている。幅広い種類の宿泊施設がある中でも旅行者に最も人気のあるエリアは、アオプラオやサイケオビーチが有名。





島に到着までの時間、上半身裸で風を気持ち良く感じてみるのも良いかもしれない。観光客は中国人や台湾人が目立った。









サイケオビーチリゾートのヴィラはひんやり涼しくて快適だった。目の前に広がる青い海はまさに大自然の絶景パノラマ。





屋台には島で採れる魚（上）や昆虫（下）がたくさんあった。どれも現地ならではの珍味だ。

バンコクの東バスターミナル（エカマイ）から約3時間程度で観光船が発着するバーン・ペー桟橋に到着。そこから船でおよそ40分。海の色が段々青く透明になって、波が穏やかになる頃、サメット島に着く。ブーケットやサムイ島がタイのリゾート地として有名だが、タイ通には密かに注目されているこの島をご存知だろうか？

まさに楽園という言葉がピッタリで、木が生い茂り人と自然が共存しているような場所だった。ここには大型スーパーなどは一切なく、国立公園入口前にあるセブンイレブン2軒のみ。主にきれいな海やプールで一日を過ごし、夜はビールでも飲みに浜辺のバーへ出かける。暑さを忘れさせてくれるくらい、風が心地よく肌を撫で、喉の乾きを冷たいドリンクで潤す。なにも考えない時間、何にも縛られない時間、ただ自然を感じ、心を休める時間を与えてくれる。僕はどのくらい、こうした時間を忘れていたのだろうか。

こんなにいっぺんに街、リゾート、ゲイライフが満喫できるタイ。これほど楽しくて有意義な時間が過ごせるとは知らなかった。タイ、最高です！



今回の旅行で新しい友達を見つけたんだ。
浜辺でチキンを食べていたら、ずっと離れなくて困ったヤツだよ。でも駄目だよ。
チキンの骨は喉に刺さるから危ないの。

それにしても、お前はいいな。こんなに気持ちの良い楽園で優雅に暮らして。あーこのままずっとこの楽しい旅を続けたいな! どう? 一緒に旅しちゃう?(笑)





さぁ次はどこに行こうかな?

トラベルバディ
travel badi!

今回お世話になったのは…

PINK Love & Travel

旅のテーマや目的はそれぞれ違うのが当たり前
ひとりひとりのニーズに応える旅行会社

LGBTにとってずいぶんオープンになってきた世の中だけど、まだまだ頼みづらいことは少なくない。パートナーや友達と一緒の旅を素敵な思い出に変えるお手伝いをしてくれるのが愛嬌ある可愛い名前のPINKさん。「ベッドは絶対ダブルがいい」とか「プライバシーを重視したホテル選び」「ゲイフレンドリーなホテル」などをちょっと盛り込んだご提案をしてくれます。ホームページにはLGBT向けのツアーもご用意。ぜひこれからは、よりあなたらしい旅を。

株式会社PINK 観光庁長官登録旅行業1861号
住所／〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-27-7 日本ブランズウィックビル9F
電話／03-5366-1300 営業時間／月ー金 10:00 ~ 19:00 土11:00 ~ 15:00
URL／www.loveandtravel.co.jp e-mail／info@loveandtravel.co.jp